



道守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.32 春号

熊本地震が教えたもの

阿蘇の大地を訪ねて
～観光の復興を目指して～

みちづくし in 鹿児島 2016

躍道 ～地方の輝き創り 道守ネットワーク～

風景街道に行く

北九州おもてなしの
「ゆっくりかいどう」を巡る

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄りは、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えていく。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。さあ、新しい道に一步踏み出そう。



阿蘇の草原 あか牛放牧

熊本地震が教えたもの

国道57号、県道28号の途絶、阿蘇大橋の落橋
24時間、突貫工事に「ありがとう」の看板
「道は繋がってこそ」を実感

熊本地震が発生して、1年。平成28年4月14日の前震、16日の本震、そして4000回を超えた余震。特に28時間の間に震度7という強震が連続的に襲ったのは、初めてのことだった。国道57号の被災、途絶、シンボル阿蘇大橋の落橋、県道28号（熊本高森線）の依山トンネルと6橋の損壊―「道の被害」は甚大だった。道路は縁の下への力持ちで、社会、暮らしを支えていることが、身に染みて教えられた地震体験でもあった。

○道を、道を下さい

被災地を訪ねて、印象的だったのは、依山トンネルなど県道28号の復旧に当たった工事担当者の話だった。南阿蘇村の被災者に「何か足りないものはありませんか」と支援物資の希望を訪ねた。答えは「道です。道を下さい」だったという。一番、求められていたのは道だった。

県道28号の依山トンネルや桑鶴大橋などは地震動と火山地層の弱さも重なって大きく壊れ、阿蘇大橋の落橋と共に、熊本市側から南阿蘇村への道は閉ざされ、孤立した。傷ついた人々の救援、支援物資の調達から通勤通学ま

ですべてが「う回路」を通して行われた。う回路・グリーンロードは、国交省のテックフォースを中心に「啓開」されたが、標高1000m近い依山山頂付近を走っている。冬になると、凍結、降雪で不通になる。

○ありがとう、感謝します

急ぎ工事がはじめられたのは、依山トンネルの復旧と6つの橋を迂回する道路づくりだった。「雪の降る前までに開通を」切なる住民の願いを受けて、この工事は、24時間、突貫工事で進められた。深夜まで走るダンプトラックに、村民は苦情どころか、「ありがとう。感謝します」の看板を県道沿いに掲げた。異例なことだ。その看板に作業者たちも奮い立ったという。

長野敏也村長（当時）は「県道28号もグリーンロードも、建設時には、税金をもっと他に使うべきだ」の声を聞いていた。「しかし、もし、グリーンロードがなかったら、村はどうなっていたことか」と、命綱になった、もう1本の道路を持っていたことの有難さを振り返る。

○もう一本の道を

国道57号は同村立野の大規模な斜面崩壊で大きく壊れた。中九州を横断する基幹道路が途絶したのだ。50万mと言う膨大な土石がJR豊肥線、国道57号を破壊し、阿蘇大橋を落橋させた。2次災害の恐れもあり、工事になかなか着手できなかったが、4月復興事務所が現地に開設され、本格復旧に入る体制が整えられた。

国道57号沿いの道の駅「大津」の上野駅長は「道は繋がって初めて、道の役割を果たすことが身に染みてわかりました」と言う。痛感したのは「もう一本の必要性だ。地震後「中九州道の早期実現を」と多くの住民が訴える。

上野駅長はミルクロードなど「う回路」の道案内に忙しい。被災時は、避難者が道の駅に殺到、広い駐車場がいっぱいとなり、炊きだしなど救援に追われた。南阿蘇村の道の駅「あそ望ぎの」は救援ヘリの離着基地、自衛隊の救援前進基地になった。その他の道の駅も道の駅の経営に打撃を受けたが、救済に大きな役割を果たした。道守、道の駅、風景街道の三者連携が求められているが、その必要性、切実さもまた、熊本地震が教えたものだった。

CONTENTS

- 01 熊本地震が教えたもの
- 02 阿蘇の大地を訪ねて
～観光の復興を目指して～
- 04 みちづくし in 鹿児島 2016
躍道 ～地方の輝き創り 道守ネットワーク～
- 08 わたしの好きな道
桜、紫陽花、百日紅、彼岸花そして紅葉
～国道222号酒谷地区～
日高茂信
- 09 私たちの道守活動
- 12 風景街道を行く
北九州おもてなしのゆっくりかいどう、を巡る
- 14 海外道事情
古くて、若い国トルコ
高速道など巨大インフラ続々
米村享紘
- 15 第1回道路協力団体指定について
～観光の振興や道路空間の価値向上を期待～
- 16 道の駅のWi-Fiを活用した情報発信
- 17 道守人物伝・横顔・道守たちのトピックス・編集後記

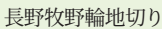
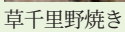
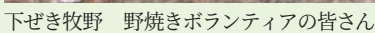
表紙画：久富 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。



阿蘇の大地を訪ねて

昨年の熊本地震により、阿蘇の草原でも道路の崩落や破損、原野の亀裂や崩落、土砂崩れなど甚大な被害が出ており、阿蘇全体では例年の野焼き面積約16,000haのうち7・5%にあたる1200haの草原で野焼きの中止が決定。中でも南阿蘇



村では村の
36%にあた
る557h
aで野焼き
を断念され
ています。
ただ地元と
しては、今
年も新緑の美しい草原が広がり、観光
客の皆様を癒していることを願って、財
団としても野焼きボランティアの皆さんと
阿蘇の復興・草原再生のために更なる努力
をしてまいりますので、今後ともご協力・
ご支援をよろしくお願いいたします。

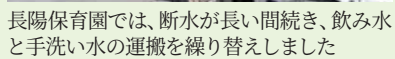
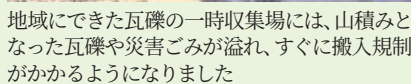
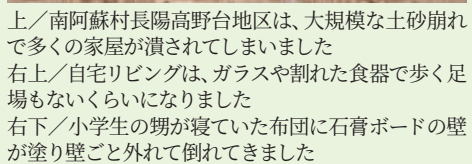
（公益財団法人阿蘇グリーンストック 事
務局次長 井上聡美）

後野焼きを止めてしまうことではなく、作業道などの整備が進めば野焼きを再開することで考えられています。

財団では通常の活動に加え、牧野道の補修や牧柵張りなど、震災で被害を受けた牧野への支援活動を行いました。また夏から秋の輪地切りも、春の野焼き支援活動もほぼ終了しています。

今年も新緑の美しい草原が広がり、観光客の皆様を癒していることを願って、財団としても野焼きボランティアの皆さんと阿蘇の復興・草原再生のために更なる努力をしてまいりますので、今後ともご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

（公益財団法人阿蘇グリーンストック 事務局次長 井上聡美）



「列車の音が聞こえる日」を
長陽駅から復興へ

2016年4月16日深夜1時25分、熊本地震の本震。南阿蘇に移り住んでからの平和な生活が一変して生き伸びる方法を思案し、一体どうこの災害から家族を守り、隣の友人や知人を助けなければという危機的な状況になりました。

自宅は、倒壊しなかったものの家ごと一回転させたようにめちゃくちゃになりました。

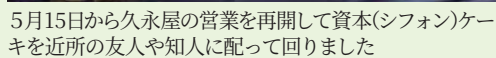
まずは、物資を届ける為に北九州の義理の両親の住む実家と南阿蘇を何度も往復し、義援金を世界中の友人から募り、物資が行きわたるようになって、やっと自宅や

長陽駅の被害状況を確認し、近所の人たちと協力しながら片付けに明け暮れました。

久永屋のある南阿蘇鉄道長陽駅の建物

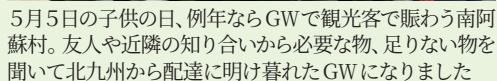
は、以前からの耐震補強を済ませたお陰もあり、築88年の古い駅舎は、壁の亀裂などはあるものの無事でした。生活するのままだまならない村の中で、のんきに資本ケーキを焼いて珈琲を提供する事に葛藤がありませんが、地元の子供達の書いてくれた手紙や絵に励まされGWの翌週からは、営業を再開しました。

未だに南阿蘇鉄道は、長陽から立野区間の被害が甚大で、半分の路線しか運行できておりませんが、久永屋が被害の大きかった長陽地区で元気に営業する事が復興への



活力になり、南阿蘇鉄道の復旧の力添えになればと信じています。

また、長陽駅にも列車の音が聞こえる日を願ひ、地域の人たちと協力し、自分が今できる事を思案しながら、今日も南阿蘇鉄道長陽駅発の資本ケーキを元気に焼いています。



※資本キーには「久永屋の資本はシフォン！」という意味が込められています。

（久永屋 久永操）

南阿蘇鉄道・中松駅

南阿蘇鉄道の中松駅の管理人を預かったその日の夜、熊本を地震の本震が襲いました。幸い、駅舎に被害はなかったものの、鉄道への被害は甚大で今も中松駅より先は不通となりました。

震災から3ヶ月半後の7月31日、トロツコ列車が高森駅と中松駅間の運行を再開したのを機に、駅の施設をカフェと子どもの遊び場としてオープンしました。

地震の影響で止めるつもりは全くありませんでした。

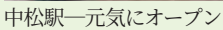
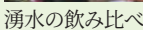
駅や建物は人が集ってこそ、地域と共に生きています。

遊び場の少ない南阿蘇で子ども達の集える場所、地域のコミュニティを繋ぐ場所、誰もが公平に来れる一番のパブリックな場所。そして、観光のお客様を迎える玄関口としての役割を担っています。

中松駅では近くの水源の水の飲み比べや、映画のロケ地の視点からの観光案内の他、地元の子ども達と旅行中の子が一緒に遊べる子ども達の居場所です。

その場所を守り、駅という特性を生かして、今後も地域と観光のお客様を繋いでいきたいと思っています。

（中松駅管理人）
高嶋千恵



熊本復興事務所及び

熊本地震復旧対策研究室が開所

熊本地震からの復旧・復興を加速し、

平成29年4月24日に九州地方整備局熊本復興事務所及び国土技術政策総合研究所熊本地震復旧対策研究室が南阿蘇村に開所しました。

事務所及び研究室では、熊本地震で被災した阿蘇大橋地区の斜面対策や国道325号阿蘇大橋の架け替え、県道熊本高森線、村道栃の木・立野線や国道57号の災害復旧事業に取り組みます。

1日も早い復旧・復興に向け、職員が一人となり、大いに期待しましょう。





道守九州会議交流会

みちづくし in 鹿児島2016

躍道 地方の輝き創り、道守ネットワーク

九州7県の道守会員が一堂に会し、情報共有を通じて親睦を図る第13回「みちづくし in 鹿児島2016」を平成28年11月25日から26日にかけて鹿児島県薩摩川内市にて開催しました。25日は薩摩川内市国際交流センターで交流会を、ホテルグリーンヒルでは交流集会を、26日は現地体験学習会を実施しました。九州各県から約360名が参加され、大きく盛り上がりました。鹿児島県でのみちづくし開催は2回目となります。今回は、鹿児島市内で開催しましたが、今回は北薩地域の薩摩川内市での開催となりました。

オープニング 薩摩川内はんや踊り

交流会のオープニングは、薩摩川内市立陽成小学校（13名）のみなさんに「薩摩川内はんや」を元氣よく踊っていただきました。薩摩川内市では郷土芸能のはんや踊りをジュニア大会として毎年開催しており、今年も教育長賞に輝いた皆さんに交流会への協力をお願いしたところ快く引き受けていただきました。会場にいる道守さんに若いパワーを届け、交流会はスタートしました。

交流会の司会という大役を担っていただいたのは、

各県道守会議活動報告

各県7名の道守さんに日頃の活動状況や今後、目指している内容など発表していただきました。

道守ふくおか会議（はかた夢松原の会）理事長 磯谷慶子さん、道守佐賀会議 事務局長前田耕介さん、道守長崎会議田口昭子さん、道守くまもと会議（NPO法人ネット八代）岡田敏代さん、道守大分会議（日本風景街道 別府湾岸・国東半島海べの道）加藤千明さん、道守みやざき会議 長友治さん、道守かごしま会議（いきいき坂美会会長）増田隆夫さん



道守会議活動報告の発表者のみなさん
(左から福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島)

パネルディスカッション

テーマ

地方の輝き創り

ネットワークにおける行政との連携・協働

パネラー紹介

道守長崎会議代表世話人 牧 圭子氏
道守かごしま会議代表世話人 田島直美氏
北九州市建設局道路部道路計画課 計画係長 竹島久美氏
鹿児島県土木部道路維持課長 八木章久氏
コーディネーター 道守九州会議副代表世話人 玉川孝道氏

鹿児島純心女子大学の4年生、伊集院琳子さんです。交流会会場の道路を挟んだ前に大学があり馴染みのある会場とはいえ、道守さんで一杯になった会場での司会は大変だったと思います。これから社会に出る前の良い経験として記憶にとどめていただければと思います。

交流会は、主催者の田島直美実行委員長、道守九州会議の樗木武代表世話人の挨拶の後、来賓の国土交通省小平田九州地方整備局長、鹿児島県三反園知事、薩摩川内市岩切市長から挨拶をいただきました。



道守九州会議
樗木代表世話人



田島 直美
実行委員長



薩摩川内市
岩切市長



鹿児島県
三反園知事



国土交通省九州地方
整備局 小平田局長

功労者表彰

道守活動を長きに渡り牽引されてきた方々の功績をたたえる功労者表彰を行い、表彰状と記念品の「黒ぢよか」が贈呈されました。「黒ぢよか」は、「黒千代香」とも言い、鹿児島では古くから焼酎の燗付け器として、おもてなしの場でも使用されております。焼酎王国ならではの記念品として来県の思い出にしてください。



贈られた「黒ぢよか」



功労者表彰

道守ふくおか会議 大木康伸さん
道守佐賀会議 渋谷里美さん
道守長崎会議 山本正治さん
道守くまもと会議 阿南誠志さん
道守大分会議 小野光男さん
道守みやざき会議 新名典忠さん
道守かごしま会議 草牟田通り会

各パネラー及びコーディネーターの発言を一部で紹介します。

●長崎は地区で月1回の会議を開催し横の連携を大事にしている。また、長崎大学と連携し道路の維持管理に対して行政への報告システムが構築されている。
(牧圭子氏)

●鹿児島県で2番目の風景街道の立ち上げに関わり、行政と話をできて色々勉強になった。花をいっぱいにして人を呼び込める地域作りをしたい。
(田島直美氏)

●道路サポーター制度によって各地区の要望や意見等を幹事会等で話しながら地域住民によりそう政策を目指している。
(竹島久美氏)

●ふるサポ推進事業を通じて県道の維持管理に地域住民の協力を頂いている。また、企業の協賛金を得て直接ボランティア団体に支給し企業を含めたサポートを行っている。
(八木章久氏)

コーディネーター玉川孝道氏から

道を舞台にした様々な活動は行政との繋がりを含め成長を見せると感じている。課題は色々残っているが、行政と市民のコラボレーションは永遠の課題であり、道守活動を通じて未来を切り開いていってもらいたい。

大会宣言

世代を超え 次の時代へ 次の世代へと つなげてきたこの道守活動
今まさに 道の上で 生き生きと活力にあふれ 躍るように 地域に根ざしたものとなってきたと実感しています
これからも 志を同じくする仲間とともに 輝く地方



を創るためには 一人一人の
ネットワークを強くしていくことの大切さ さらに
行政との連携が必要であることを
ここ薩摩の地で 胸に刻みました
今後も お互いの絆を更に強くし 九州全体で道守
活動を発展させて行くことを
ここに宣言します

みちづくしin鹿児島実行委員長 田島直美
副委員長 肥田眞八郎

交流集会

交流集会は、約320名の参加となり、会場いっ
ぱいの道守さんで熱気溢れる会となりました。最初
に実行委員会副委員長の肥田眞八郎氏の開会の挨拶
の後、地元で活動している「薩摩川内おどり太鼓」
の皆さんによる演舞で交流集会の華を飾っていただ
きました。踊り太鼓は小学生を含む若い世代がメン
バーとなり、様々なステージを経験している団体で
す。演舞は道守活動を讃える「口上」から始まりま
した。その「口上」には参加者から「大変よかつ



乾杯:岩切薩摩川内市長 開会挨拶:肥田副委員長



オープニング:薩摩川内おどり太鼓

た。感動した」という感想を耳にしました。
乾杯の音頭は岩切薩摩川内市長にとつていただき、
普段交流ができない他県の道守さんとの親睦と交流
が始まりました。

また、恒例となった道守屋台も各県それぞれ趣向
を凝らした品々が出揃い、屋台巡りをしながらのふ
れあいも大事な場面として思い出になったことと思
われます。

中盤では、地元の薩摩川内市商工会女性部による
「よさこい踊り」が披露されました。この日のために
練習を重ねられたとのことでした。

参加された各県の道守さんの紹介があり、次回開
催県・宮崎への大会旗授受が行われました。立会人



薩摩川内市商工会女性部による「よさこい踊り」



道守屋台お酒やお菓子、ミカン、
様々なおもてなしで各県PR



親睦と交流の場となった会場

現地体験学習会

2日目は、薩摩川内市内で2コースを設定しまし
た。薩摩川内市は史跡や温泉の名所も多く、来年は
大河ドラマで西郷隆盛が取り上げられるということ
で、県全体で盛り上がり始めているところだ。

【Aコース】8時開始から12時解散

●武家屋敷・戦国村（SAMURAI）コース

薩摩川内市には鹿児島県内にある三つの武家屋敷
群の一つ、入来麓武家屋敷群があります。市で
は、ボランティアガイドの説明として、小学生によ
る現地説明を実施しており、地元郷土史の知識習得
や社会性を身につける良い取組がされています。

その他、大河ドラマでも使用される甲冑や歴史資
料の展示など1,000坪の敷地を有する川内戦国村
にて枯山水の庭を見ながらゆったりとした時間を過
ごしました。



入来麓武家屋敷群にて入来小学校生徒による説明

○体験箇所…入来麓武家屋敷群（保存地区散策）↓
道の駅「樋脇」↓川内戦国村↓駅市

○参加者…42名

【Bコース】8時開始から12時解散

●西海岸（薩摩よりみち）風景街道コース

鹿児島県で2番目の風景街道として「薩摩よりみ
ち風景街道」が平成27年8月10日に承認されたこと
から、風景街道のコースの一部をご案内しました。

西海岸では、JR七つ星列車が停車する駅「薩摩高
城駅」と人形岩

を経由し、西郷
隆盛も訪れたと
言われる「川内
高城温泉」にて
風情豊かな湯治
場を見学してい
ただきました。

○体験箇所…薩
摩高城駅↓人形
岩↓川内高城温
泉散策↓駅市
○参加者…37名

最後に

今回の開催テーマを『躍道^{注1}（やくどう）』とし
たことは、日頃の道守活動が地方の輝き創りへと繋
がり、道守さん自信も輝いた存在となってきたこと
中で、道を舞台にいっきと道守さんが活動してい
ることへの敬意とエールを表したことからです。

※注1 躍動のドウの韻を踏んで躍道とした造語



西郷隆盛ゆかりの「川内高城温泉」を散策



各県紹介(写真は道守かごしま会議)



大会旗授受(鹿児島県から宮崎県へ)

を九州地方整備局土井道路部長にお願いし、次回開
催県である「道守みやざき会議」へ「みちづくし大
会旗」が受け渡されました。

口上（一部抜粋）

昔から道は人々の共有
財産である。道は、街を
作り産業を興し文化を運
び、人々を結びつける。

：道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊か
な暮らしをもたらした車優先社会は人々の心を道か
ら遠ざけてしまいました。

そんな現状に心を痛め、「道はみんなの財産」、行
政と住民が「協働」で道を守るという新しい意識の
潮の流れが生まれた。九州各地の活動が合流し大き
な流れになって「道守九州会議」の誕生。…私達も、
あき伍ボイ捨てをやめ、ゴミ拾いに、花植え、参加
したいです。今日は「道守会」、この意義ある舞台
で、演奏できる幸せ、魂の太鼓、祈りの太鼓 天高
く打ち鳴らします



口上を述べて

『みちづくしin宮崎2017』開催案内！

平成29年2月24日、第1回みちづくしin宮崎
2017実行委員会を開催しました。
今後、よりよいみちづくしが開催できるよう、準
備を進めてまいります。

日程：平成29年10月5日(木)、6日(金)の2日間(両
日とも平日)

【1日目】

交流会場：宮崎市民プラザ

(宮崎市橋通西1丁目1番2号)

交流会会場：MRTmicc

(宮崎市橋通西4丁目6番3号)

【2日目】

現地体験学習会





そして歴史の街道沿いには地域の
各市町村で整備もされてきました。



埋もれていた石畳など歴史の道は
を迎えをいただき熊本城の復興を願っ
たものでした。



今年も四街道に子ども達の大きな
声が響くことでしょう。どうぞ声援
ください。

(代表 阿南誠志)

熊本 から 地域の 報告 自然を愛する会

「歴史街道」モミジ150本植栽

40年前子ども達を
連れて「参勤交代の
道・豊後街道」を歩
きました。

最初は郷土史家の先生を訪ね一本
のルートを地図に書き込み出発しま
したが400年前の歴史の道は直線
道路になったり草に覆われて歩けな
いほどの道でした。しかし草に覆わ
れた山道に石畳が残り歓喜の声を上
げたこと覚えています。それから毎
年歩くようになり今年の夏に40回目
の「参勤交代・九州横断の旅」です。

現在は熊本城を起点にした豊後街
道・薩摩街道・豊前街道・日向街道
の四街道を500人ほどの小中学生
と高校・大学生ボランティアなどで
歩いています。歩きながらゴミ拾い
ゴミを捨てない啓蒙、歴史を学ぶ、
自然との共育・共生が基本理念にし
ての実践活動です。

昨年は熊本地震でルート変更もあ
り、またゴールの熊本城へは入城出
来ませんでした。しかし二の丸広場
をゴールにして大西熊本市長のお出
迎えをいただき熊本城の復興を願っ
たものでした。

私たちの 道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題
と向き合う。それは私たち自身の
未来を考えること。歩いて楽しく、
暮らして楽しい地域づくりのため
に、九州各地の道守会員が取り組
むスタイルやアイデアなどもさまざ
まな活動を紹介します。

方々のおもてなし花壇が疲れを癒し
てくれます。

現在、熊本城を起点にした豊後街
道・薩摩街道・豊前街道・日向街道
の四街道を500人ほどの小中学生
と高校・大学生ボランティアなどで
歩いています。歩きながらゴミ拾い
ゴミを捨てない啓蒙、歴史を学ぶ、
自然との共育・共生が基本理念にし
ての実践活動です。

昨年は熊本地震でルート変更もあ
り、またゴールの熊本城へは入城出
来ませんでした。しかし二の丸広場
をゴールにして大西熊本市長のお出
迎えをいただき熊本城の復興を願っ
たものでした。



わたしの好きな道

桜、紫陽花、百日紅、彼岸花そして紅葉

～国道222号酒谷地区～

私にとって好きな道は、なんといっても国道222号です。
それも、酒谷地区です。酒谷地区を縦断する国道222号は
飢肥境の種子田から都城境の上熊隧道まで20kmほどあります。
平成5年に酒谷地区むらおこし推進協議会が設立されたのを
機に、地域に「自信と誇り」を持つために地区全体をキャンパ
スと考え、花で色を塗ることにより素晴らしい景観が出来上が
るのではないかと取り組みました。2月（春）は小室桜に始ま
り、城ヶ崎桜、緋寒桜、次いで山桜が終わるころソメイヨ
シノと続きます。6月は梅雨で人が外出したくないときに楽し
んでいただくために紫陽花、花の少ない真夏は百日紅、9月は
彼岸花（日南ダム・坂元棚田）そして秋は紅葉と年中楽しめます。
これも、地域住民全体で取り組んできた成果です。桜の花
においても平成6年から毎年植栽を続け、昨年で20km程の国道
すべてに植え終えました。早いものは幹回り100センチ前後
となり、素晴らしい花をつけてくれます。昨年植えたソメイヨ
シノも4～5年すると花をつけてくれることでしょう。とても
楽しみです。

また、このような地区の取り組みに、ご理解と協力をいた
だいた宮崎県日南土木事務所の方々にはとても感謝しています。
このようなお力添えがあったからこそ地区住民も頑張れたのだ
と思います。植えたら植えっぱなしではなく、下刈りをしたり、
肥料を施したり、時には天狗巢病の除去をしたりして管理をし
てきました。酒谷を知らずにドライブした方でも、あのすばら
しい桜の道はどこだったのだろうと思いついてもらうことに
より、また次の年においていただき、酒谷の良さを感じ取って
いただけるのではと、期待をしてみます。

今後も、私の誇りでもある国道222号線に色を塗り続けたい
と思いますので、多くの方においていただき楽しんでいただ
きたいと思っています。



プロフィール

日高茂信（ひだか・しげのぶ）

宮崎県日南市大字酒谷在住
宮崎県地域づくりネットワーク協議会 顧問
酒谷地区むらおこし推進協議会 会長
酒谷むらおこし株式会社 代表取締役

熊本



並木街道を守るボランティアの会

四季を通じ、緑と花育つ

私たちの活動は、郷土を通る豊後街道の一部
二キロの由緒ある並木街道です。その荒廃地に
並木を植栽し、景観美化に努め、今年は十五年
目になりますので現状を振り返ってみました。

まずは、並木植栽完了で、活動内容を変更・
領域拡張・実態に合った会名に改正。派生問題
として現状の危険性・作業量の増大・刈払機使
用の必要性・高齢化等が挙げられます。

並木街道の草・藪刈り清掃、並木街道の葛刈と
並木整姿作業などの本業は刈払機持参で、自発
的に参加する者が実施し、高齢者や女性は安全
な清掃部門を担当しています。

こうした活動で最も嬉しいのは、愛情を込め
植樹した並木たちが、豊かな緑・紅葉・開花等
で四季を通じて楽しませてくれることで、通行の
方々に喜ばれることも大きな励みです。

なお最近有志が景観美化への花添として、沿
道一キロに彼岸花球根を植え、楽しみにしている
ことも嬉しい出来事の一つです。（黒木嘉次郎）

彼岸花植栽の仲間たち



福岡



ごみゼロ青春探検隊いとしま

次世代の道守につながる環境学習

地元の小・中学校の生徒のみなさんと一緒に、環境学習の一環としてクリーンUP作戦を、平成11年から、毎週・毎月・毎年行っています。拾ったごみは分類し、どのようなゴミが多かったか・どのような場所に多くあったか・なぜごみは減らないのか等を話し合うことで、自分達の地域は自分たちできれいにしなければいけないという意識を持ってもらいたいと思っています。また、私たちの日ごろの活動について副読本の「ごみゼロ青春探検隊 紙芝居」を読み聞かせたり、活動の様子や想いを伝え、「ゴミは必ず持ち帰ること。ゴミを拾う人になること」をお願いしています。みんなが気持ちの良い緑豊かな自然・道路環境を守り続け、未来につなげるために、「できることを、無理せず、楽しく、仲良く、いきいきと」をモットーにこれからも道守活動を続けて行きたいと思っています。（呼びかけ人 酒井忠彬）



ごみ拾いとごみ分類の様子



紙芝居の読み聞かせ

大分



顕徳町デウスクラブ

シバザクラ1300本植樹！

私たち「顕徳町デウスクラブ」は、大分市金池校区・顕徳町の国道10号沿い(約400m)の草取りを年間3〜4回行っています。また、2015年10月に大分市内の他の場所(国道10号西大分地区)で「シバザクラ」を植樹する事業があり、二つ目の事例として、2016年5月、国交省の管轄する花壇にシバザクラ1,300本を植樹しました。暑さに弱いと言われる「シバザクラ」ですが、根づく7月〜10月まで一日おきに朝8時〜10時の間、水をたっぷりあげたお陰か、しっかりと根を張り、12月ごろからポツポツと綺麗なピンクの花が咲いてくれました。花壇は、交通量が多いY字の島地帯にあります。が、信号で止まった車が窓をあけて『綺麗ですね。』とか、近所の方が『いつも綺麗にしてくれてありがとうございます。』などと声をかけてくれるようになり、花壇を管理する私たちにとって、とても嬉しく励みになっています。昨年の「みちづくりin鹿児島2016」では、「道守会議功労者」として表彰していただきましたので、これからも花を絶やさないよう頑張りたいと思います。（会長 小野光男）



シバザクラ植樹の様子



綺麗なピンクの花をつけたシバザクラ

佐賀



グリーンバード佐賀チーム

自分たちの街をもっとキレイに、もっとカッコよく

「きれいな街は、人の心もきれいにする」。これが私たちグリーンバードのコンセプト。原宿表参道発信のこのプロジェクトは日本だけでなく、海を越え世界に広がっています。私たち佐賀チームは2012年4月29日に誕生しました。主な活動は「街のそうじ」。月に3回、朝は登校中の子どもたちと挨拶を交わしながら佐賀城公園辺りを、夜はほろ酔いかげんのお父さんたちにエールを送られながら繁華街・愛敬町を、日曜日は親子連れの参加者も多くどん3の森・佐賀駅周辺を、みんなで楽しくおしゃべりしながらゴミ拾いしています。街のそうじに資格なんてありません。「街を汚すことはカッコ悪いことだ。」という気持ちを持つだけでいいのです。なので会員登録などもしません。「ゴミやタバコをポイ捨てしない」と宣言すれば、誰でもグリーンバードのメンバーです。活動日はwebで発信しています。「グリーンバード佐賀チーム」で検索してみてください。誰でもいつでもできる時にご参加ください。自分たちの街をゴミ拾いで歩いてみると、ますます街が好きになりますよ。（代表 かくもとしほ）



小さな子はゴミ発見するのが上手です



佐賀ライトファンタジーを楽しみながらのおそうじ

宮崎



串間のみちを考える女性の会

カンナの花でおもてなし

私達は、平成19年に商工会議所・JA大東・串間市漁業協同組合・建設業協会・ソロブチミスト串間・民生委員・個人会員で設立し、現在100名で東九州自動車道の早期事業化・開通に向けての要望活動や地域のイベント・研修会など積極的に取り組んでいます。道守活動は、平成21年よりシーニックバイウェイ串間エリア推進協議会に於いて私達が主体となり、行政・民間団体・地域住民・高校生等に協力いただき、国道448号線名谷トンネル〜都井岬の約3kmの沿道にカンナ・ジャカラランダの植栽除草・草刈作業を毎年3〜4回実施しています。雑草に悪戦苦闘していますが、土の入替や雑草の対策としてテストピースでの花壇作りも行っています。カンナは串間市の花であり、幸せの花です。又、南郷町〜都井岬線をジャカラランダで統一することで景観が一層よくなり、訪れる観光客に自然や美しい風景を提供でき、癒しとおもてなしの場をアピールできると思いますので、今後も継続して取り組み、地域の活性化に繋がることを願い、皆で頑張っていきたいと思っています。（齊藤チツ子）



会のみんなと集合写真



カンナ・ジャカラランダの植栽、除草・草刈作業

長崎



小浜温泉57

育て！故郷を思う心 夢と希望を託して植樹

国道57号は長崎県庁前から地元小浜温泉・雲仙・島原を経て、阿蘇・大分市内までの総延長約270km、九州横断の主要国道です。昨年の熊本地震はこの57号を直撃・多くの箇所が破壊され今も復旧工事が続きます。被災の皆様は心からお見舞い申し上げます。 「小浜温泉57」は文字通り小浜温泉・雲仙を貫通する国道57号の環境美化にこの10年来、地元旅館の女将さんをはじめ関係者の協力を得て地道に取り組んでいます。今年も恒例の地元小学校の卒業記念のジャカラランダ植樹に子供たちは故郷を思う心と自分たちの夢と希望を託して植樹してくれました。 活動の原点は「継続」です。国道57に因み、5・7の毎月12日にPDCAの月例会議、活動内容と四季折々の風景を載せて両面刷りの「小浜温泉57だより」の月例発行。いづれも10年来の「継続は力」です。地味な継続活動が地元住民の信頼と協力を得ています。（代表 鶴殿勝）



ジャカラランダ剪定作業参加者 (2017年1月10日)



小浜小学校卒業記念植樹 (2017年3月13日)

鹿児島



喜入まちづくりグループ

喜人は黄色 喜色の花でまちづくり

私たちの会は「喜入まちづくりグループ」です。私たちは鹿児島市内から指宿方面へ向かう途中の国道226号線の喜入町で花壇の整備を行っています。現在、約9名で沿道の花植え活動を続けています。グループでは、毎年夏にひまわりと秋には菜の花と種をまき、地区を歩かれる方やドライバーの方にきれいな地域、心安らぐ地域を実感していただければと願い活動を続けています。 国道226号線は交通量も多く、海沿いを走る風景の中にあつて、とかく緑が少なく感じておりますが、ひまわりや菜の花の黄色が映えることで沿道環境が少しでも良い方向に向かえばと思います。喜入まちづくりグループとしては、高齢化等で活動が難しい団体がある中で、私達はこれからも花を植えることで元気な姿を皆様に見ていただき、今後も継続して活動していきたいと思っています。私達の活動が地域の良い環境作りに、また、元気な笑顔一杯の通りになることを目指して頑張りたいと思います。（代表者 原口學）



沿道の花植え活動



満開のひまわり



黒崎宿・曲里の松並木―参勤交代の道



世界文化遺産旧日本事務所―官営八幡製鐵所



門司港レトロ―大正ロマンただよう



常盤橋―小倉の五街道の起点

北九州おもてなしの “ゆっくりかいどう”とは

「北九州おもてなしの“ゆっくりかいどう”」の対象ルートは、大正ロマン漂う門司港レトロから門司往還、長崎街道を通して木屋瀬までの約40km。訪れた人たちが散策でき、歴史、文化や美しい景色をゆっくりと味わえるというのが、おもてなしの“ゆっくりかいどう”の由来だ。

【長崎街道】

「長崎街道」は、江戸時代、海外との貿易を許された唯一のまち長崎に通じる道として重用された。

「長崎街道」は海外への窓口としてだけでなく、多くの人、物、そして文化を運ぶ幹線道路として重要な役割を担ったといわれている。

長崎に陸揚げされた砂糖が、「長崎街道」を経て日本各地へと運ばれ、比較的砂糖が手に入りやすかった街道筋で、古くから甘い菓子が盛んに作られるようになったことから別名「シュガーロード」とも呼ばれている。また、ベトナムから長崎にきた白象を八代將軍徳川吉宗に献上するため、

【大里地区】

門司駅を中心として南北に広がる地域が大里と呼ばれている。

江戸時代の参勤交代に伴い宿場町として発展し、大正期には神戸の総合商社である鈴木商店が国内最大の拠点として一大工場・倉庫群を築き上げた。現在も門司麦酒煉瓦館や旧サッポロビール九州工場醸造棟など、当時の面影を残す近代化遺産群の建築物を見ることが出来る。

【小倉城周辺】

小倉城は、関ヶ原の合戦の功勞によって入国した小倉藩主、細川忠興によって築城された。この城の天守閣には、全国でも珍しい「唐造り」と呼ばれる建築様式が用いられ、4階と5階の間に屋根のひさしがなく、5階が4階よりも大きく膨らんでいるのが特徴的である。

小倉城周辺には、約300本の桜があり、花見時には天守閣から眼下に広がる桜と小倉の街並みが楽しめる。また、リバーウォーク北九州などの商業施設や小倉城庭園、松本清張記念館など文化施設も充実しており、今では国内外の観光客が多く訪れる観光の名所となっている。

【八幡東田地区】

2015年7月に官営八幡製鐵所関連施設が世界文化遺産に登録され、東田地区に新たな見どころが誕生。

風景街道を行く 北九州おもてなしの “ゆっくりかいどう” を巡る

「長崎街道」を通して江戸まで連れていったのは有名な話だ。

【小倉の紫川に架かる常盤橋】

江戸時代、常盤橋は、小倉から九州各地に延びる諸街道の起点であり終点でもあった。長崎街道、中津街道、秋月街道、唐津街道、門司往還の5つを「小倉の五街道」と呼び、そのすべてがこの橋につながっていた。現在の橋は、橋げたや欄干に天然木が使用されており、江戸時代の風情を感じることができる。

毎年、ウォーキングイベントが開催され、多くの人が江戸時代の情景を思い浮かべながら「長崎街道」を歩き楽しんでいる。

【大正ロマン漂う門司港レトロ】

門司港レトロ地区には、明治から大正にかけて造られた建物が今でも残っている。

木造建築の門司港駅をはじめ、大正ロマン漂う建物たちがエキゾチックな雰囲気を出している。少し足を伸ばした和布刈エリアには、絶好のビューポイントが数多くあり、源平の合戦や宮本武蔵と佐々木小次郎の巖流島の決闘で有名な関門海峡を望むことができる。関門海峡の夕陽はとて鮮やかで、「日本一、美しい海峡」との呼び声が高い。

また、太古の昔から現代までの変遷を学ぶいのちのたび博物館をはじめ、イノベーションギャラリーや環境ミュージアムなど、魅力ある展示施設が集まっている。

ケーブルカーとスロープカーを乗りついで到着する標高622mの皿倉山。その展望台から眺めるパノラマ夜景は、100億ドルの夜景と呼ばれ、「新日本三大夜景」に認定されている。

【宿場町黒崎】

かつて宿場町として九州西半の諸大名や多くの旅人が利用した黒崎。

当時の賑わいを示すように、町の随所に由緒ある寺社や趣漂う史跡を見ることが出来る。松並木道が600mほど続く曲里の松並木は、江戸時代に徳川幕府が全国の街道に松や杉を植樹させた名残で、中には江戸時代から残っている松がある。

【黒崎から木屋瀬へ】

立場茶屋銀杏屋は、江戸時代の黒崎宿と木屋瀬宿の間にある参勤交代の大名たちの休憩所であった。諸大名も籠を降りて歩いたというほど急な石坂を上った所に設けられた。その名の由来は、庭にある大銀杏である。

そして、宿場町として栄えた木屋瀬。問屋場跡や群屋跡、所々に残る「矢止め」と呼ばれるのこぎり型の家並みなど、今も当時の面影を偲ぶ建物が数多く残っている。

立場茶屋銀杏屋―木屋瀬・のこぎり型の家並みも



小倉城―珍しい「唐造り」の建築様式

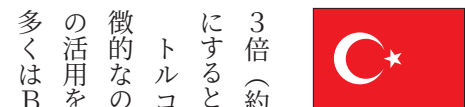
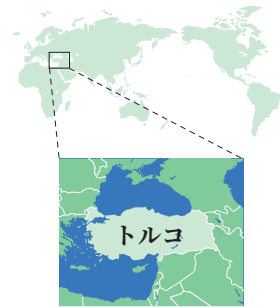


門司麦酒煉瓦館(大里)―近代化遺産群の面影



■北九州風景街道(長崎街道)推進協議会

ご覧のとおり、「北九州おもてなしの“ゆっくりかいどう”」のルート沿線には、自然・歴史・文化などの地域資源が数多くある。その魅力を多くの人に知ってもらうため、39の団体・機関で構成する「北九州風景街道(長崎街道)推進協議会」では、毎年、風景街道まつり(5月)、子どもウォーキング(11月)、フォト&スケッチコンテスト(9~10月募集)、歩くっちゃキタキュー(3月)などを開催している。今後も取組を継続し、風景街道の認知度向上やルートの魅力PRに繋げていきたいと考えている。



古くて、若い国トルコ 高速道など巨大インフラ続々

3倍（約2,300km→約7,800km）にするという意欲的な目標を掲げている。トルコのインフラ整備において最も特徴的なのは、公共投資ではなく、民間投資の活用を積極的に導入している点である。多くはBOT（Built Operate Transfer）方式※を導入している。

※民間の事業者が自らのリスクでインフラ設備の建設から運営まで請け負い、投下資本を回収した後、現地政府に引き渡す方式

近年の代表的な事例を挙げれば、総延長約400km、総事業費約60億ドルのゲブゼーイズミル高速道路がBOT方式で



トルコ的高速道路



イスタンブールの夜景(ボスポラス海峡)



カッパドキアの風景

建設中であり、そのうちイズミット湾を横断する橋梁建設には、日本企業が参画している。イズミット湾横断道路橋は、中央径間が1,550mの世界第4位の吊り橋であり、私は残念ながら開通直前に帰国したが、2016年6月に無事開通を迎えた。

トルコで建設に実際携わっている日本企業の方に聞いた話として非常に印象的だったのは、海外の大規模プロジェクトを受注することは、若い技術者にOJTで技術力を継承するために必要不可欠だということである。昔の日本の長大橋プロジェクトに携わった技術者も高齢化してきており、国内において大規模なプロジェクトが減少している現在の状況を考えると納得がいく。中国・韓国などのラ

イバルとの競争が激しい海外市場において、高い技術力を売りにする日本企業が勝ち抜くためには、今後も継続的に海外プロジェクトを受注していくことが必要と感じた。

最後に。トルコは世界有数の親日国。自分が日本人というだけで、自然と好印象を持ってくれる（これは本音）。イスタンブール、カッパドキア、パムッカレなど世界遺産も多数。ビジネスの他に、観光でも魅力的なトルコに機会があれば一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



プロフィール
よねひら たかひろ
米村 享紘
国土交通省九州地方整備局
道路部道路計画第一課長。
2013年3月から2016年3月
まで在トルコ日本国大使館
勤務。2016年4月より現職。

第1回道路協力団体指定について

～観光の振興や道路空間の価値向上を期待～

【活動のイメージ】



※写真は、道路法第16条の21(道路協力団体の業務)の各号に対応

平成28年4月に道路法が改正され道路協力団体が創設後、初めての道路協力団体の指定を行いました。

今回の指定は、初めての募集であったこともあり国で管理している区間を対象に募集を行いました。

対象としては、活動を行おうとする区間で直近数年間にわたり道路管理者と協力して道路管理に資する清掃や除草等の公的活動を行っている実績がある団体です。

また、今後その活動を充実させるために、安全かつ円滑な道路交通の確保や道路通行者または、道路利用者の利便の増進に資する業務を行うことにより、道路空間を活用し、収益を得る活動を行い、かつ道路維持管理活動と収益を得る活動を有機的に連携させ、道路空間の快適性の向上等に協力を頂く法人等を対象としていました。

道路空間を活用して収益を得る活動の例としては、オープンカフェや露店等の食事施設、購買施設やシェアサイクル駐輪場、街路灯への広告旗設置などがあります。

また、道路維持管理業務を特に重点的に行う区間に絞り、その全てが、公的活動の実績がある区間と重複していることなどを条件としました。

その条件のもと、九州地方整備局では、道路の清掃・美化活動や植栽管理など道路で活動されている団体を対象に道路協力団体を募集し、平成28年12月26日付けで第1回の道路協力団体の指定を行いました。

道路協力団体に指定されると、その活動で行う道路占用の許可について、道路管理者との協議で足りることとなります。

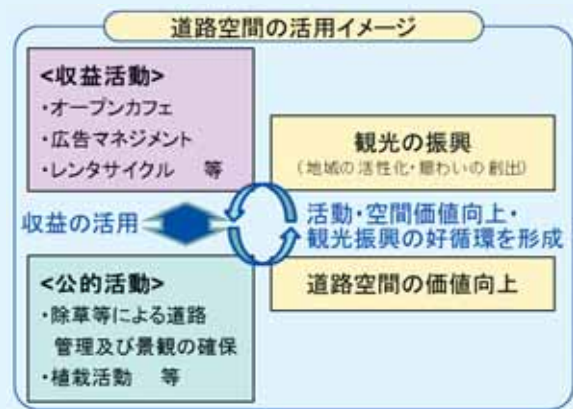
また、占用については、通常、道路以外に利用できる場所のないことが原則ですが、道路協力団体に对此はこの要件も緩和されます。

今後この制度により、道路協力団体と関係道路管理者が連携した地区の課題解消や賑わいの創出を期待しています。

またオープンカフェやレンタサイクル等で活動をおこない、それで得た収益を活用し除草や植栽活動等の道路維持管理活動を行うことにより、観光の振興や道路空間の価値が向上することも期待しています。

○道路協力団体第1回指定団体について
道路協力団体の第1回指定を、九州では、4団体の指定を行いました。

【指定のイメージ】



○道路協力団体制度担当
九州地方整備局 道路部 道路計画第二課 調査係
TEL:092-476-3530(直通)

○九州地方整備局HP
http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/douro_kyouryoku.pdf

九州地方整備局トップページ
⇒道路部 ⇒道路協力団体制度



【九州の第1回指定団体】

道路協力団体名称	活動地域
けやき通り発展期成会	国道202号（福岡市内）
NPO道守長崎	国道57号（長崎県雲仙市）
道守大分	国道10号（大分市内）
日南海岸地域シーニックパイウェイ推進協議会	国道220号宮崎市～日南市



イズミット湾横断道路橋(建設中、2015年3月)

風景街道は、各パートナーシップと連携しながら、美しい国土景観の形成や地域活性化、観光振興に関する取り組みを進めています。ルート内に美しい景観など地域資源を有し、パートナーシップの方も一生懸命活動して頂いており、まだまだ、多くの人に風景街道の活動について知って頂いていない状況です。

そのため風景街道の知名度向上の取組として、「風景街道」と「道の駅」が連携し、SNSを活用した道の駅での情報発信を展開を始めました。

平成29年4月から国が管理する国道の「道の駅」を活用し、道の駅の無料Wi-Fiからポータルページを通じて風景街道を案内しています。

九州風景街道ルートのエリア内には、

道の駅のWi-Fiを活用した情報発信

現在、道の駅が43駅あり、うち国の管理する国道には道の駅が15駅あります（平成28年度末時点）。その中で平成29年4月には6駅において風景街道のポータルサイトを展開しました。

「道の駅」に整備された「道の駅SPOT」に接続すると道の駅のポータルペー



情報を発信する道の駅



道守 人物伝

地元が元氣。まちが元氣

荷馬車組合 会長 前田健治さん



薩摩川内市南の玄関口、薩摩川内都インター国道3号沿いの「干支の門松」は、本市の年末・年始の風物詩となっています。

「道守」や「交通安全」の啓発活動の一環として、付近の国道3号等道路清掃と併せて実施しています。また、門松や干支（十二支）については、「川内大綱引」の綱を再利用。門松は、直径1m、高さ4mのものを一対、2週間程で作っています。

その他、「できる人が出来ることをやる」というスローガンのもと、当会の活動として「国道3号の除草等のボランティア」「月1回の定例会」地元「川内大綱引への参加」「各種イベントへの参加」等を15名の会員で頑張っています。

なお、南九州西回り自動車道、薩摩川内都インターの供用開始イベントへも地元薩摩川内市からの要請で、「つくり馬（張りぼて）」により参加しております。今後も、他のボランティア団体等とも連携し、「地元が元氣。まち（薩摩川内市）が元氣」となるべくサポートしたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。



横顔

九州地方整備局（新）地域道路調整官

田浦峰星氏



地域道路調整官は、本年4月より企画部広域計画課長から現職に就任。熊本県出身。「日々、道守活動をつうじて、地域のまちづくりと協力いただいている道守会員の皆様と強いパートナーシップを築き、より良いまちづくり・まちづくりに尽力します。今後とも皆様のご協力をよろしく願います。」と語られています。

九州地方整備局（新）道路情報管理官

柳田誠二氏



道路情報管理官は、本年4月より佐賀国道事務所長から現職に就任。宮崎県出身。「道守の皆様とは道守九州会議設立の時からお付き合いをさせていただいており、前任地の佐賀国道事務所では「おひなまつり清掃活動」や「R203桜プロジェクト」など楽しく活動させていただきました。九州の道がきれいになり、地域が元氣になるよう、引き続き連携・協働よろしく願います。」とのこと。

道守たちのトピックス

■前田建設工業株の「Me-pon」から寄付をいただきました！

「Me-pon」は「Maeda eco-point」の略称で、社員の方が環境活動に参加されるとポイントが付与される制度です。付与されたポイントの一部を環境団体等に寄付するメニューがあり、それによって道守九州会議に寄付していただくことになりました。今後も継続していただくことで、資金面で四苦八苦しているわが団体にとって、心強く、ありがたい申し出に深く感謝しています。

これからも様々な制度を発掘していきたいと考えています。



道守通信 編集後記

○熊本地震から1年、今回は観光の復興を目指して頑張っている熊本・阿蘇を特集しました。昨年末は俵山トンネルが開通し、4月24日に南阿蘇村に熊本復興事務所が開所、復興事業の推移や地元の方達の思いを伝えました。

○今回、巻頭インタビューはお休みしました。次回からは引き続き、道守さんと協働しながら地域づくりを進められている首長さんに登場していただきます。

○第13回の道づくし、鹿児島の方たちのパワーに圧倒されました。各県会議からの活動報告はステップアップした内容で参加された皆さんの参考になるものばかりでした。まさに、地方の輝きは道守の手によるものと実感しました。次回、第14回は宮崎市で、10月5日・6日に開催です。例年よりひと月早いですが、たくさん道守さんたちに会えるのを楽しみにしています。

～道守を支援いただいている賛助会員の皆様(団体・企業)～

※順不同

(一社)九州地域づくり協会	九州国道協会	九州電力(株)
(一社)プレストレストコンクリート建設業協会 九州支部	(一社)日本道路建設業協会 九州支部	福岡市道路利用者会議
(一社)福岡県建設業協会	福岡県道路協会	(株)大林組 九州支店
(一社)佐賀県建設業協会	佐賀県道路愛護協会	鹿島建設(株) 九州支店
(一社)長崎県建設業協会	長崎県道路協会	建設サービス(株)
(一社)熊本県建設業協会	熊本県道路利用者協会	清水建設(株) 九州支店
(一社)大分県建設業協会	大分県土木建築協会	大成建設(株) 九州支店
(一社)宮崎県建設業協会	宮崎県道路利用者協議会	長幸建設(株)
(一社)鹿児島県建設業協会	鹿児島県道路利用者協議会	(株)高山組
九州技術支援協議会	社会福祉法人 宇水会 特別養護老人ホーム宇水園	(株)熊谷組 九州支店
みちを考える会	朝日開発コンサルタンツ(株)	朝日工業(株)
(株)アジア技術コンサルタンツ	(株)アップス	(株)安部日鋼工業 九州支店
(株)安藤・間 九州支店	鳥城塗装工業(株)	(株)エスイー 九州支店
NTTインフラネット(株) 福岡支店	NTTインフラネット(株) 熊本支店	NTTインフラネット(株) 鹿児島支店
扇精光コンサルタンツ(株)	大分県建設業協会 大分支部	大分県道路舗装協会
大分交通(株)	(株)大島造船所 九州営業所	(株)荻島組
(株)オリエンタルコンサルタンツ 九州支店	鹿児島土木設計(株)	上内電気(株)
株式会社カンドー 九州支店	川田工業(株) 九州営業所	九建設計(株)
(株)九州開発エンジニアリング	九州建設コンサルタント(株)	九州地区道路利用者会議
九州みちの会	協同エンジニアリング(株)	(株)橋梁コンサルタント 福岡支社
(株)ケー・シー・エス 九州支社	(株)建設環境研究所 九州支社	(株)建設技術研究所 九州支社
(株)建設技術コンサルタンツ	(株)建設技術センター	(一社)建設コンサルタンツ協会 九州支部
コーアツ工業(株)	(株)駒井ハルテック 九州営業所	(株)西海建設
(株)サタコンサルタンツ	三州技術コンサルタント(株)	昭和コンクリート工業(株) 九州支店
新成建設(株)	新日本技研(株) 福岡支店	(株)新日本技術コンサルタント
(株)西部技建コンサルタント	(株)センコー企画	(株)総合技術コンサルタント 九州支店
そうじの会(多久の未来を創る会)	農事組合法人そよかぜ館(「道の駅大和」)	大日本コンサルタント(株) 九州支社
大福コンサルタント(株)	太陽技術コンサルタント(株)	瀧上工業(株)
宅島建設(株)	谷川建設工業(株)	(株)玉の湯
(株)地域科学研究所	中央復建コンサルタンツ(株)	(株)長大 福岡支社
通信土木コンサルタント(株) 九州支店	(株)東亜コンサルタント	東急建設(株) 九州支店
(株)東京建設コンサルタント 九州支社	利光建設工業(株)	戸田建設(株) 九州支店
(株)友岡組	(株)名村造船所 福岡営業所	南生建設(株)
西日本技術開発(株)	西日本コンサルタント(株)	西日本コントラクト(株)
日鉄鉱山コンサルタント(株) 福岡支店	(一財)日本造園修景協会 大分県支部	(株)野村建設
葉隠会道守部会	(株)萩原技研	範多機械(株) 福岡営業所
(株)ピーエス三菱	(株)日高時計本店	(株)福山コンサルタント
(株)富士設計	(株)富士ピー・エス	(株)ぶぜん街づくり会社(「道の駅」豊前おこしかけ)
復建調査設計(株) 九州支社	前田建設工業(株) 九州支店	松本技術コンサルタント(株)
(株)丸福建設	(株)水野建設コンサルタント	宮崎空港ビル(株)
(株)宮崎産業開発	宮地エンジニアリング(株) 福岡営業所	八千代エンジニアリング(株) 九州支店
(株)ヤマウ	(株)ヤマックス	(株)ワンステップ
個人会員70名		



発行「道守九州会議」

広報誌「道守通信」春号
平成29年5月●日発行

「道守九州会議」事務局

■道守支援室(九州地方整備局道路管理課内)
〒812-0013 福岡市博多区博多駅前2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

■(一社)九州建設技術管理協会内
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/> e-mail michimori@qsr.mlit.go.jp